

～少子高齢社会におけるリスクについて考えよう～

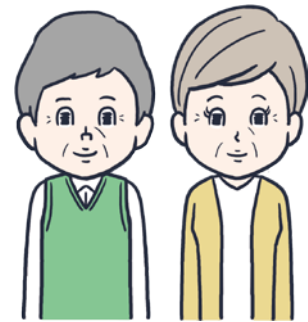
「人生100年時代」に必要な備えとは？

本日の授業内容

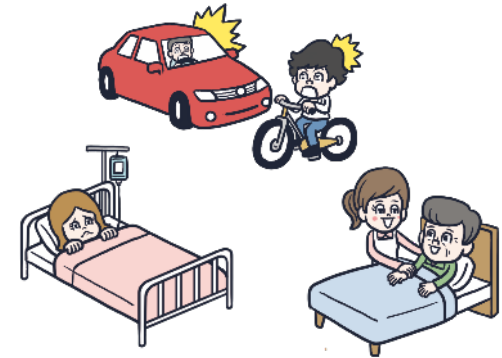
- 1.少子高齢化について考えよう
- 2.リスクについて考えよう
- 3.社会保障制度って何だろう？
- 4.「預貯金」と「民間保険」の違いって何だろう？
- 5.まとめ

今日のねらい

① **少子高齢社会**において、
日常生活を送るうえで意識
すべきことを考える。



② リスクから自分の身を守る
手段として、**自助・共助・
公助**について理解する。



③ 「自助」として、自分で備え
る手段の**預貯金と民間保険**
の特徴を理解する。



1. 少子高齢化 について考えよう

考えてみよう

今、日本に「100歳以上」の人が何人いるか知っていますか？



1963年(約60年前)には「153人」だったが…

答えは、

「約8万人」



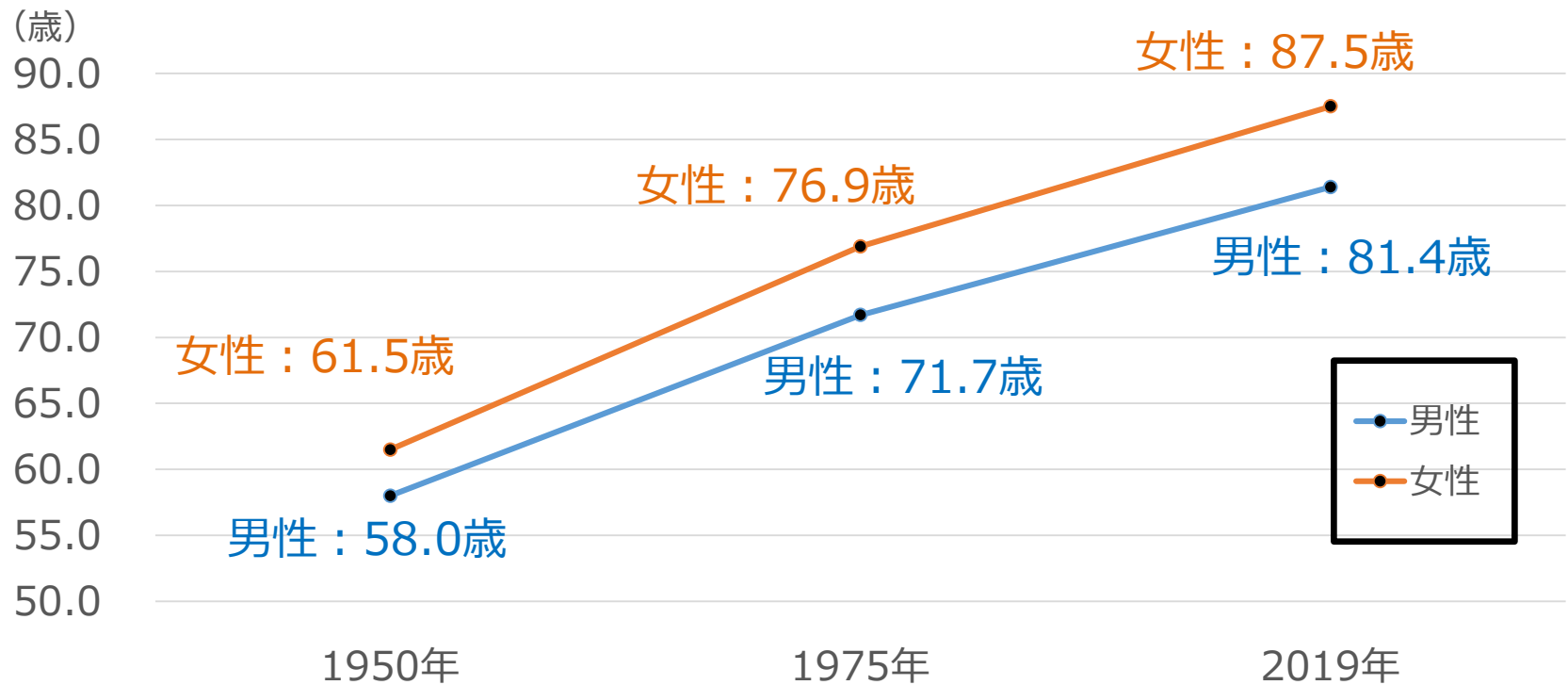
・「80,450人」のうち、

全体の約88%(70,975人) は女性

平均寿命

「平均寿命」とは…

0歳の子どもが平均して何歳まで生きられるかを示す指標



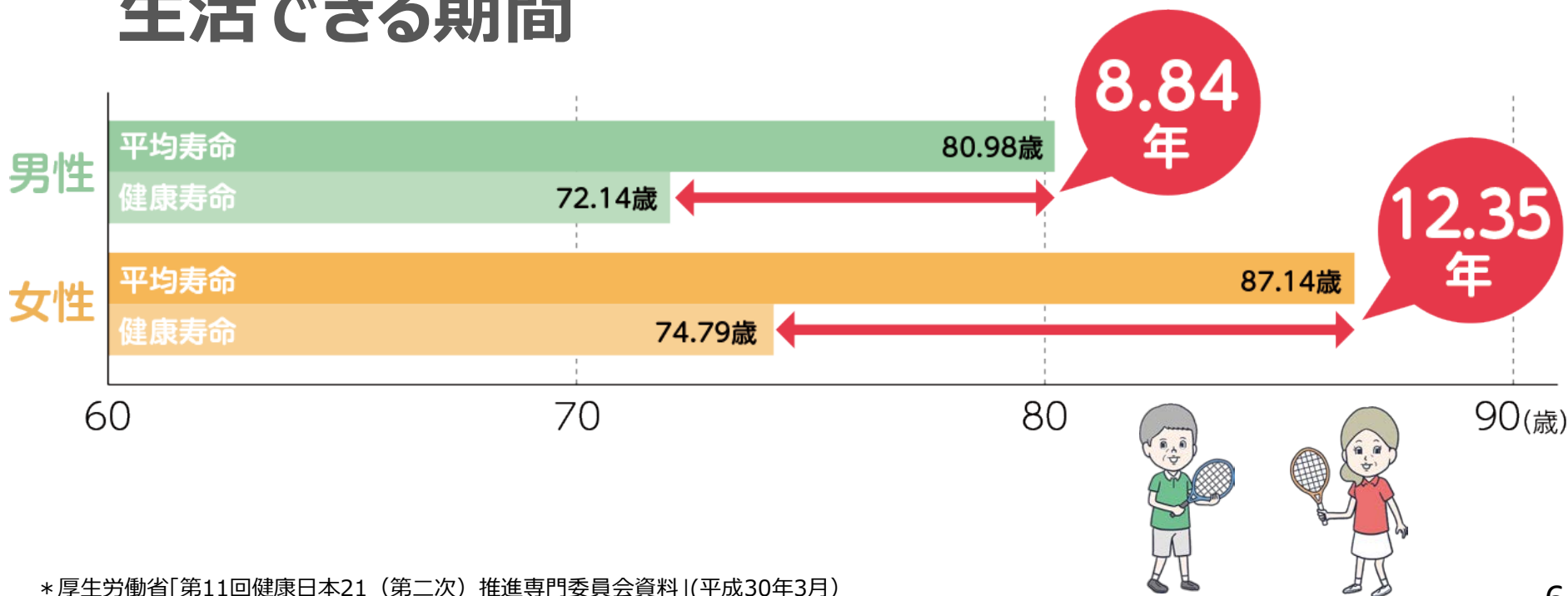
平均寿命と健康寿命

「平均寿命」

0歳児が平均して何歳まで生きるかを示したもの

「健康寿命」

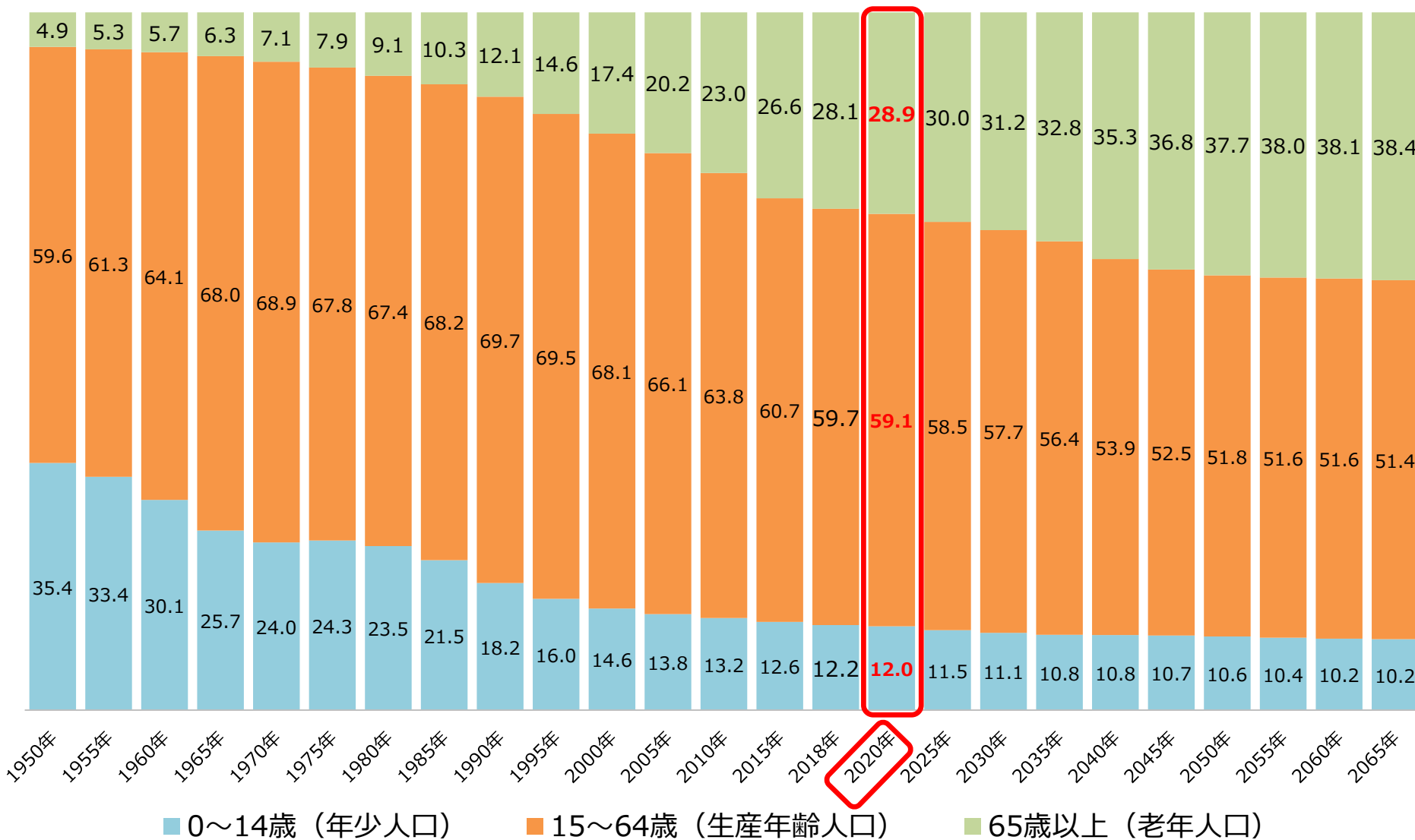
健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間



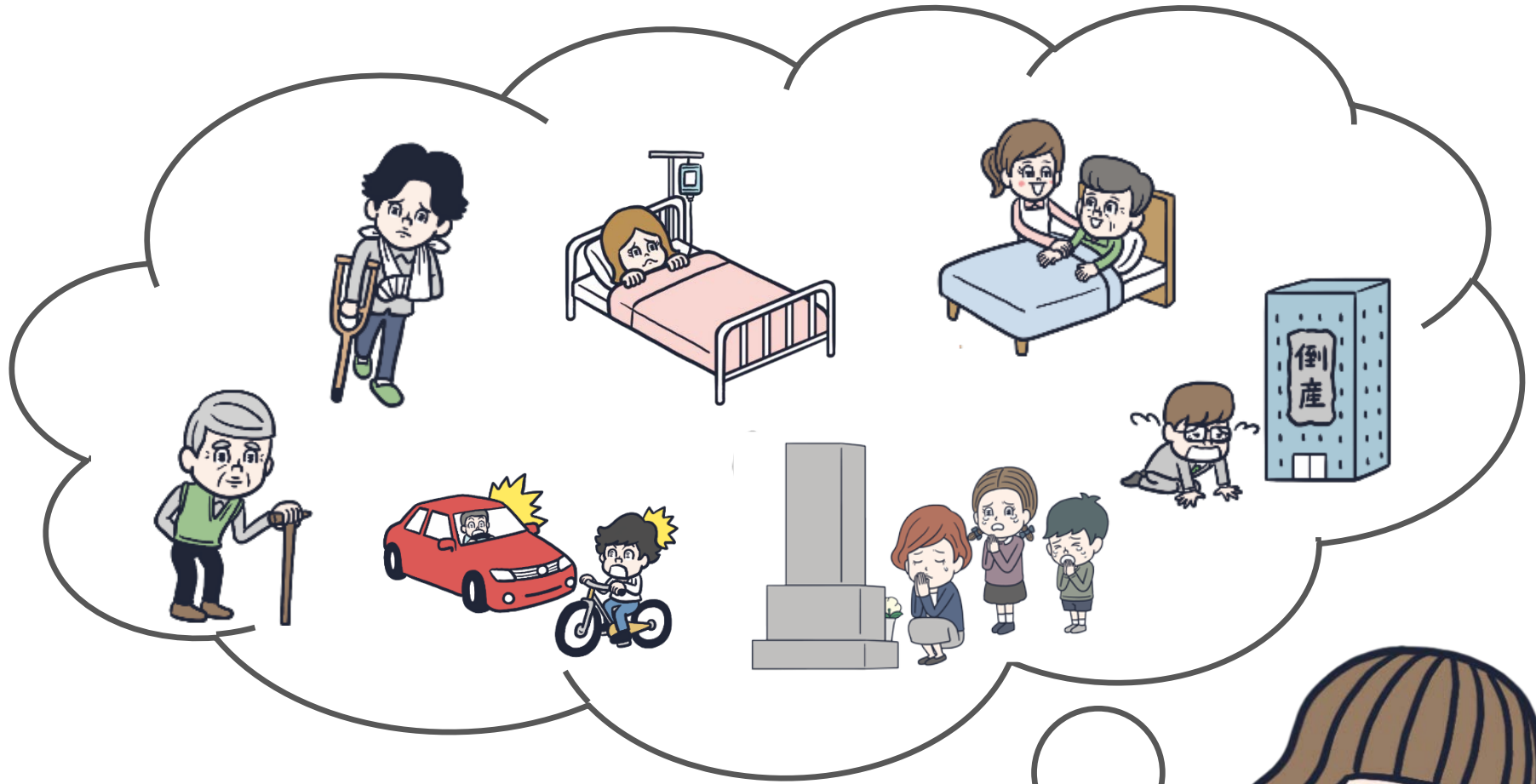
日本の少子高齢化の現状と推計

人口に対する各年齢層の割合

(%)



人生におけるリスク



人生には色々なリスクがある
よね。どんなリスクがあるか、
見てみよう。

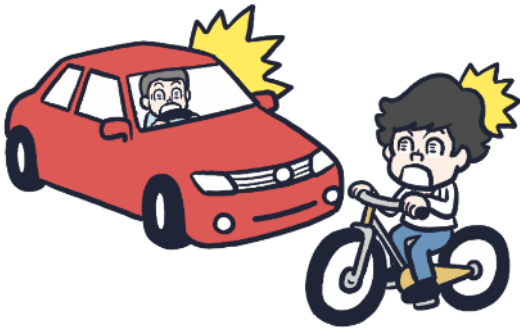


2. リスクについて考えよう

リスクとは何か

起きてほしくないことで、起きると

お金がかかること



交通事故



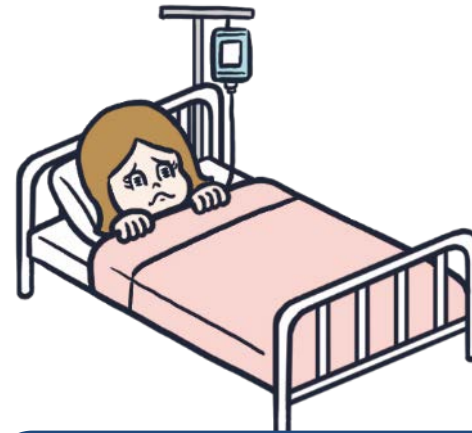
財布を紛失



自転車の盗難



スマホを破損



病気で入院

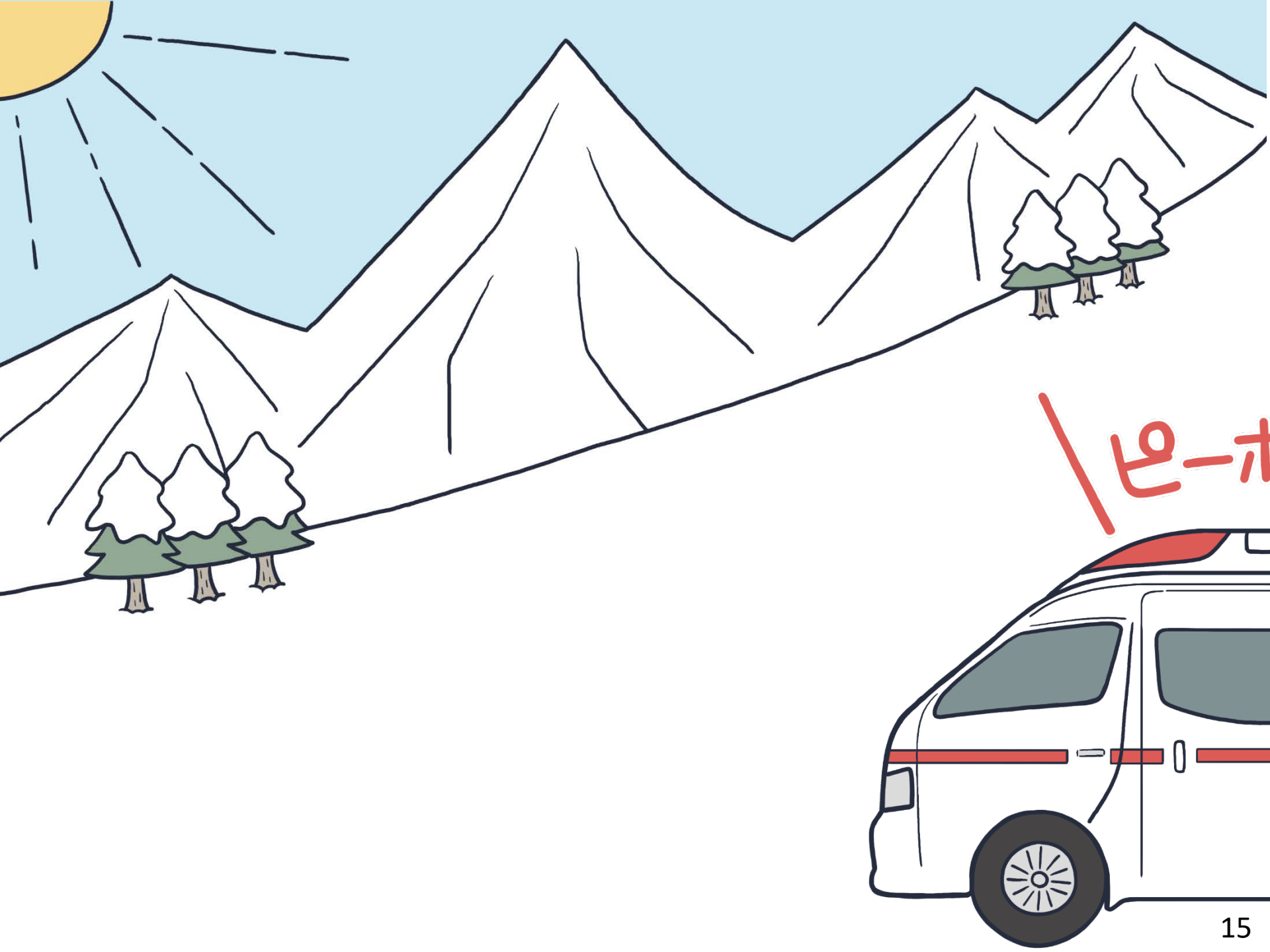


今日は沢山
すべるぞ～！



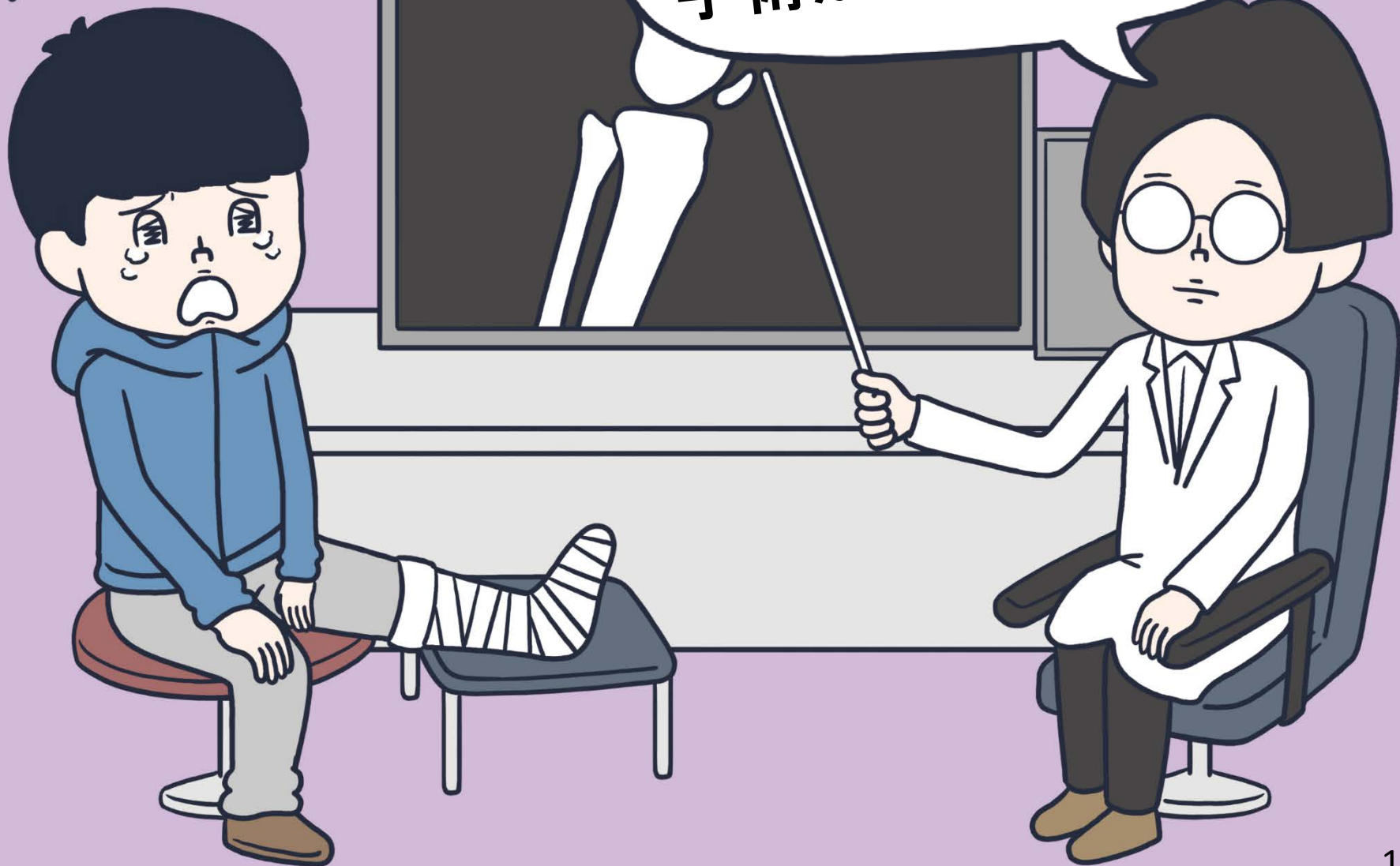






ううっ...

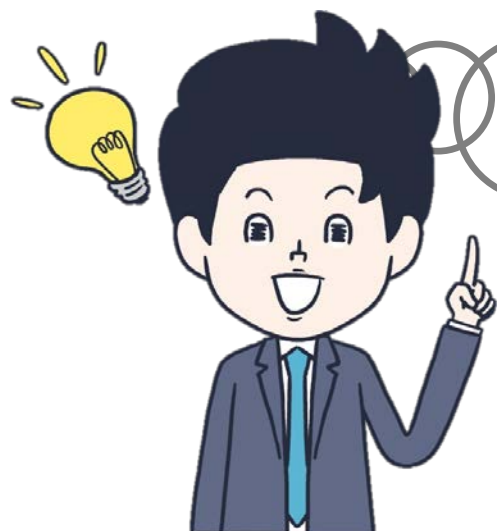
これは...
手術が必要ですねえ



考えてみよう

**骨折をしたら・・・
どんなことにお金がかかるか考えてみよう**

**入院、手術、薬にお金
がかかるかな？入院し
ている間の生活費も
必要？10,000円
くらいかな？**



①必要となるお金(事例)

★足の骨折で22日間入院した事例

—

①必要となるお金

かかった医療費	約178万円
その他	約8万円

合計	<u>約186万円</u>
----	---------------

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2020年9月改訂版)

※その他・・・入院している間の食費やお見舞いに来てくれた人へのお返し等



②入ってくるお金(事例)

+

②入ってくるお金

公的保障 (公的医療保険)	約166万円
------------------	--------

合計	<u>約166万円</u>
----	---------------

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2020年9月改訂版)

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。

③自分で準備する必要があるお金(事例)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



－

①必要となるお金

かかった医療費	約178万円
その他	約8万円

合計	約186万円
----	--------

＋

②入ってくるお金

社会保険 「公的医療保険」	約166万円
------------------	--------

合計	約166万円
----	--------

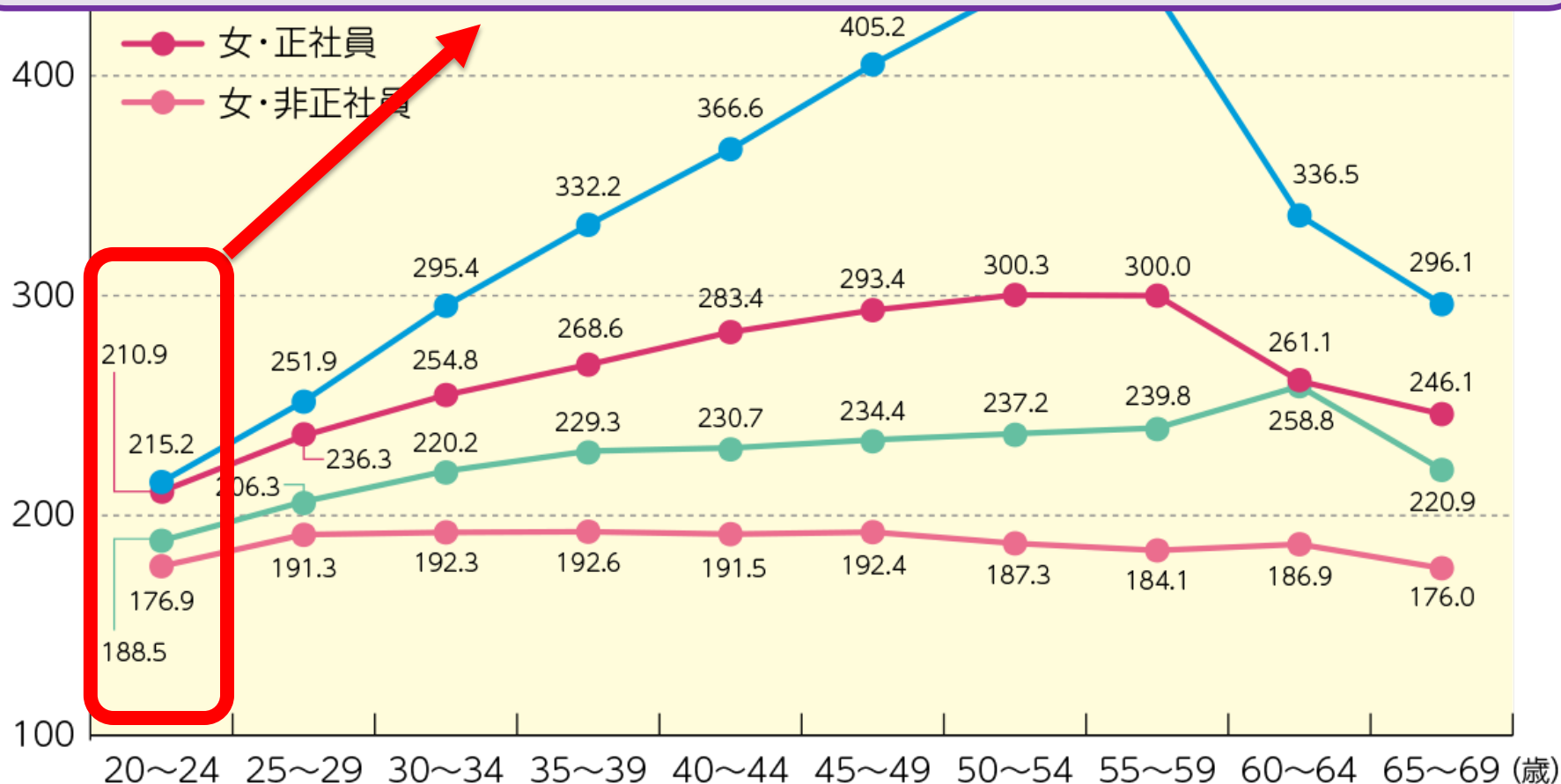
＝

③自分で準備する必要があるお金

約20万円

月額給与について

- 男性:正社員 約21.5万円・非正社員 約18.9万円
- 女性:正社員 約21.1万円・非正社員 約17.7万円



自分の身を守るために

① 自助

自分で備える

預貯金

民間保険

② 共助

共に備える

健康保険や年金などの「社会保険」

社会保障
制度

③ 公助

国などが備えてくれる

生活に困っている人
などを支援

共助

公助

3. 社会保障制度 って何だろう？

「社会保障制度」とは

共助

**社会
保険**

病気・老後・介護・失業などの場合に国などが一定の給付を行う制度
(公的医療保険、公的年金保険、公的介護保険 等)

**社会
福祉**

障がい者や母子・父子家庭などに対して公的な支援を行う制度(児童福祉、高齢者福祉 等)

**公的
扶助**

生活に困窮する国民に対して最低限の生活を保障し、自立を助けようとする制度(生活保護 等)

**公衆
衛生**

国民が健康に生活できるよう様々な事項についての予防、衛生のための制度(予防接種 等)

**社会
保障
制度**

公助

「社会保険」とは

社会 保険

制度

1. 公的医療保険

2. 公的年金保険

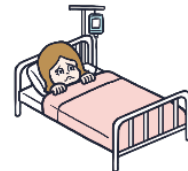
3. 公的介護保険

4. 労働者
災害補償保険

5. 雇用保険

主な保障の内容

病気やケガにかかる治療費



老後
障害状態時
遺族 } の生活費など



介護サービス費用
(訪問介護など)



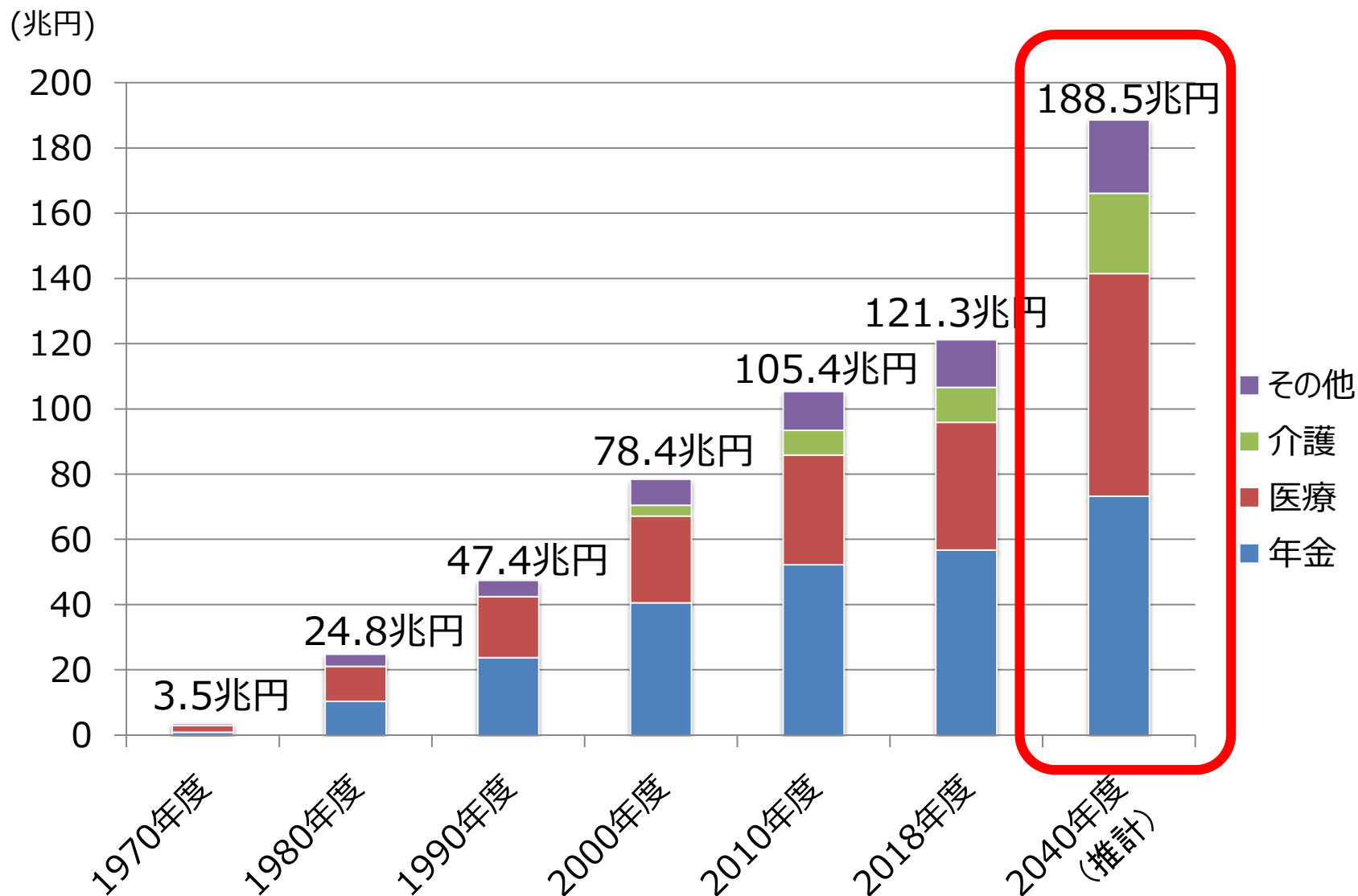
仕事中のケガ等の治療費



失業時の生活費



社会保障給付額の推移



*1970～2000年度は国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」、
2018年度・2040年度は厚生労働省「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」をもとに生命保険文化センターが作成

自助

4. 「預貯金」と「民間保険」の 違いって何だろう？

自分の身を守るために

① 自助

自分で備える

預貯金

民間保険

② 共助

共に備える

健康保険や年金などの「社会保険」

社会保障
制度

③ 公助

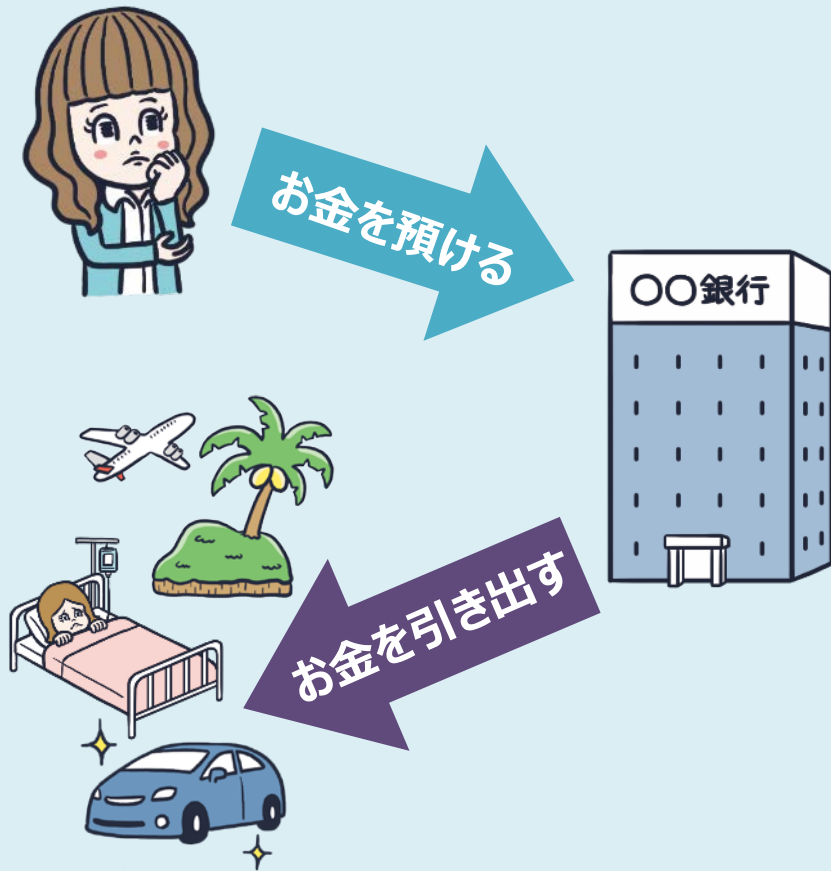
国などが備えてくれる

生活に困っている人
などを支援

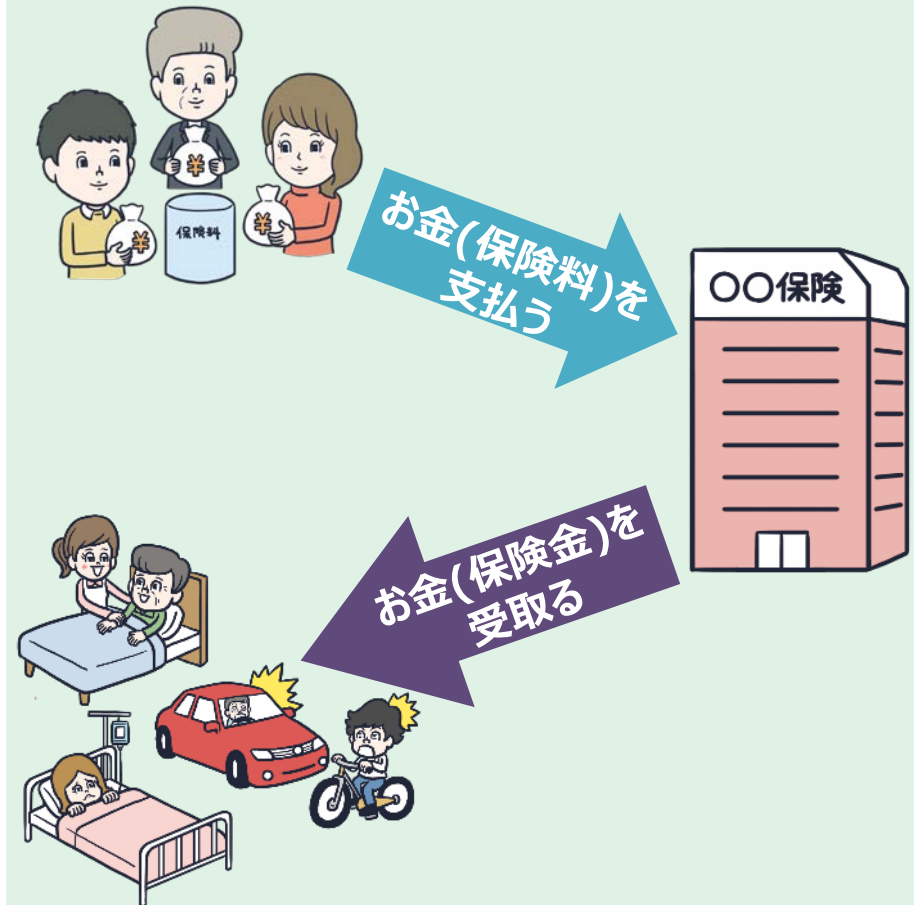
4-①.「預貯金」と「民間保険」 の違いは・・・

「預貯金」と「民間保険」の違い①

預貯金



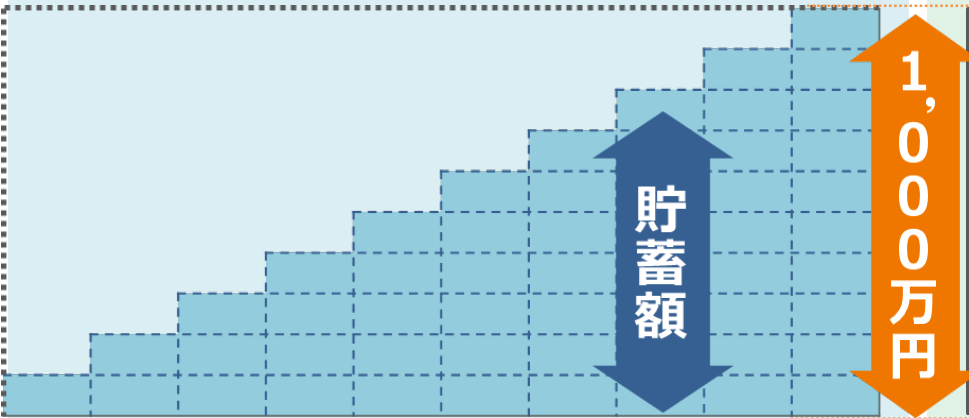
民間保険



「預貯金」と「民間保険」の違い②

預貯金

目標額



30歳

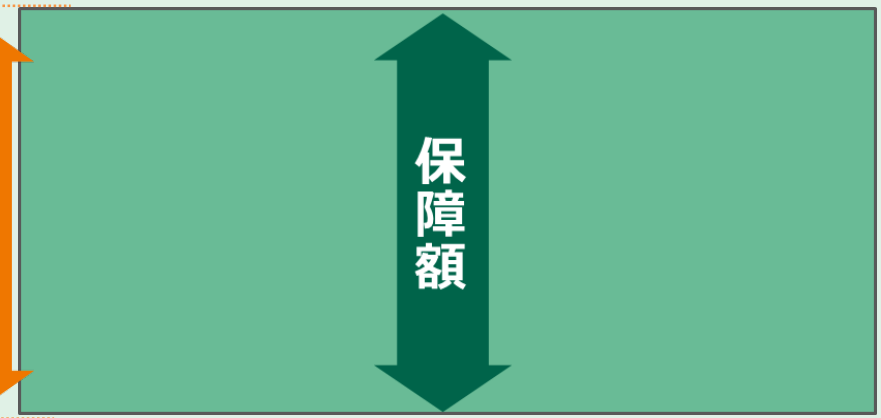
40歳

貯蓄額は毎年100万円（総額1,000万円）

特徴

**さまざまな目的の
ために貯める**

民間保険



30歳

40歳

保険料は毎年約3万円（総額約30万円）

特徴

特定のリスク
に備える

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

「預貯金」と「民間保険」の違い③

預貯金

民間保険

メリット

○貯めたお金は**自由**に使うことができる。途中での引き出しや貯めるペースが**自由**。

○途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**あらかじめ決められた金額**を受け取ることができる。

デメリット

●途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な金額が貯まっているとは限らない**。

●決められた金額を**保険料として支払う**必要がある。
(保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある)

4-②. 保険のしくみ

保険のしくみ①

100人の部員がいる
サッカーチーム



毎年
5人の部員が
骨折を
している



対策をしても
ケガは減らない...



治療にかかる費用は
ひとり10,000円



保険のしくみ②

全員で治療にかかる
費用を準備すれば
よいのでは？



治療にかかる費用は
全員分で
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$
➡ **50,000円**



$50,000\text{円} \div 100\text{人}$
➡ **ひとり年間500円**



骨折した生徒は
10,000円を受け取り、
治療費にあてる

ケガに備えるために……

それぞれが
出し合う
費用



500円



100人



¥ 10,000



¥ 10,000



¥ 10,000



¥ 10,000



¥ 10,000

骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、
治療費を支払える

4-③. 生命保険って何？

生命保険と損害保険

生命保険

対象

人

受取額

あらかじめ約束した
金額

備えられる
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



など

損害保険

モノ

事故により発生した
損害額

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震



など

生命保険の種類

目的と保障の内容

種類



「死亡」の保障

死亡すると、遺族の生活費等として
お金(保険金)を受け取れる

定期保険・養老保険
終身保険
など



「病気・ケガ」 の保障

病気やケガにより入院や手術をすると
お金(給付金)を受け取れる

医療保険
など



「老後」の保障

あらかじめ決められた年齢になると
決められた期間お金(年金)を受け取れる

(個人)年金保険
など



「介護」の保障

介護状態になると
お金(給付金)を受け取れる

介護保険
など

どのくらいの家族が契約しているの？

【問題】

国内で「生命保険」を契約している
家族の割合は約何%？

A.約50%

B.約70%

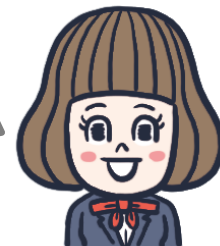
C.約90%

【答え】

平均88.7%

⇒ C.約90%

1件でも生命保
険に加入してい
る家族の割合
だよ。



何件契約しているの？

【問題】

家族で契約している生命保険の
件数は平均で何件？

A.約1件 B.約4件 C.約6件

【答え】

平均3.9件

⇒ B.約4件

例えば3人家族で
それぞれ病気やケガ
に備えるために「医
療保険」に契約して
いれば3件分の加入
になるよ。



いくら払っているの？

【問題】

家族が1年間で保険会社に
支払っているお金（保険料）はいくら？

A.約20万円 B.約40万円 C.約60万円

【答え】

平均38.2万円(年間)
(月々約3.2万円)

⇒ B.約40万円

水道光熱費や
食費、携帯電話
のお金などの他
に、これだけの
金額を負担して
るんだね。



* 生命保険文化センター「平成30年度生命保険に関する全国実態調査」

生命保険会社全体でいくら支払われているの？

【問題】

1年間で国内の保険会社から契約者に支払われるお金（保険金等）はいくら？

A.約3,000億円 B.約3兆円 C.約30兆円

【答え】

約28.8兆円
⇒ C.約30兆円

1年間で全生命保険会社が集めた保険料は約33.9兆円。一部は将来の支払いに備えて「資産運用」をしてるんだって。



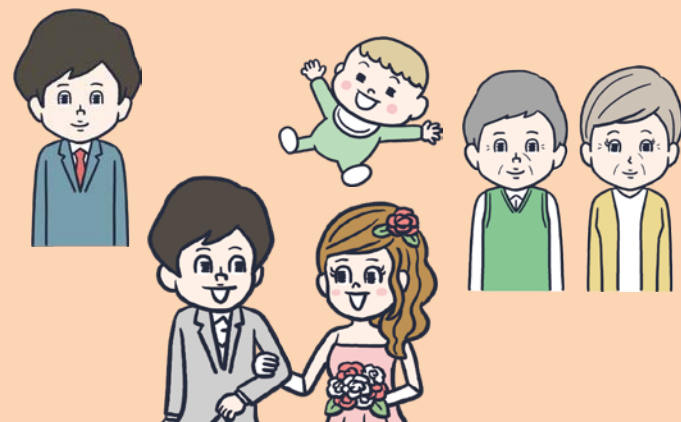
5. まとめ

まとめ

- ① **少子高齢社会**で生きていくためには**リスク**に気づくことが大切。
- ② リスクから自分の身を守る手段として**共助・公助**といった**社会保障制度**だけでなく、**預貯金**や**民間保険**といった**自助**もある。
- ③ **社会保障制度**で不足する部分を、**自助**である**預貯金**や**民間保険**を利用して**準備**することが大切。

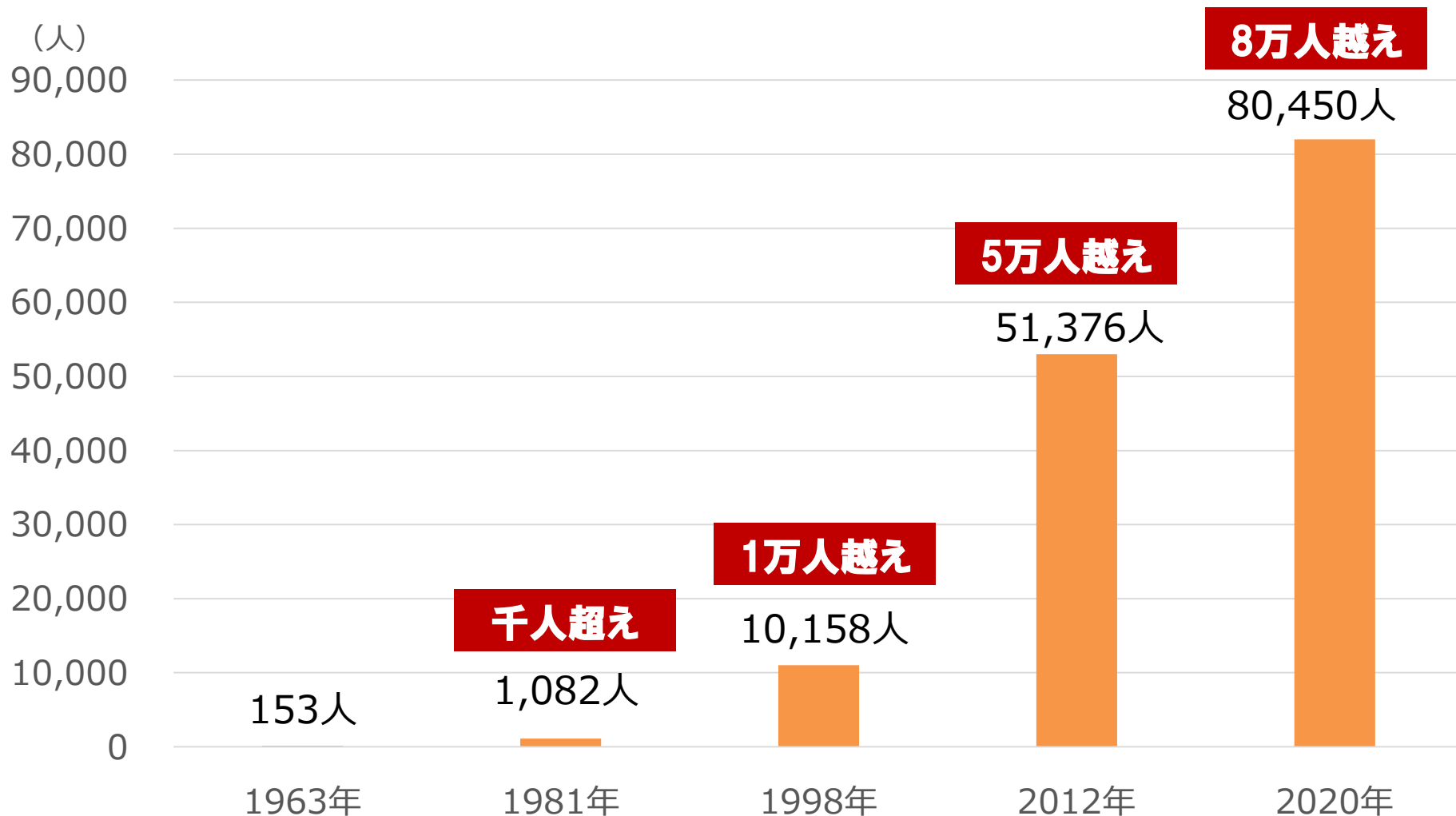
最後に・・・

リスクについて考えることは、自分や家族の「人生」について考えることにつながります。



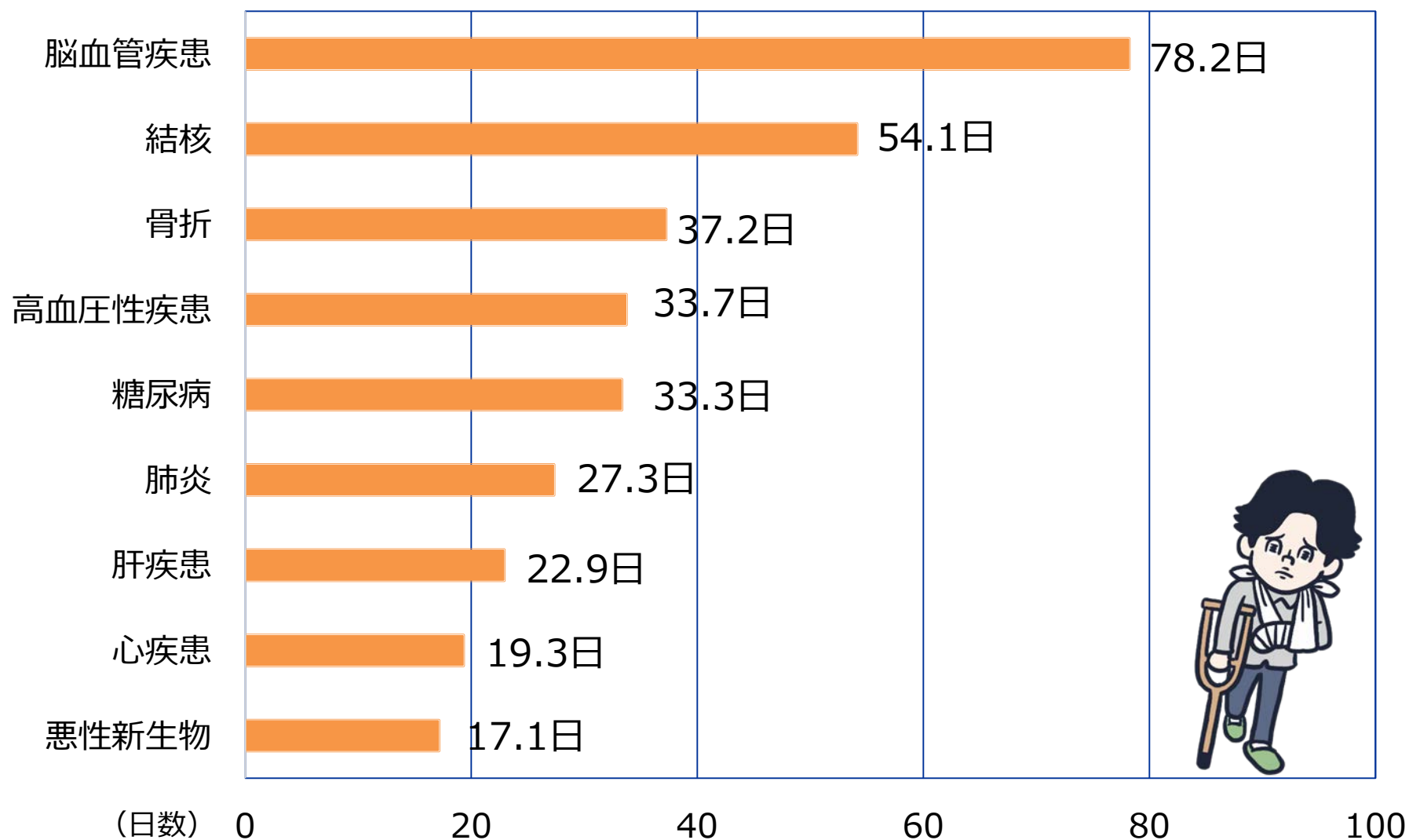
自分の生活や将来に関心を持ち続け、
自分から情報を集めようとする姿勢が大切です。

【参考】100歳以上の高齢者の数



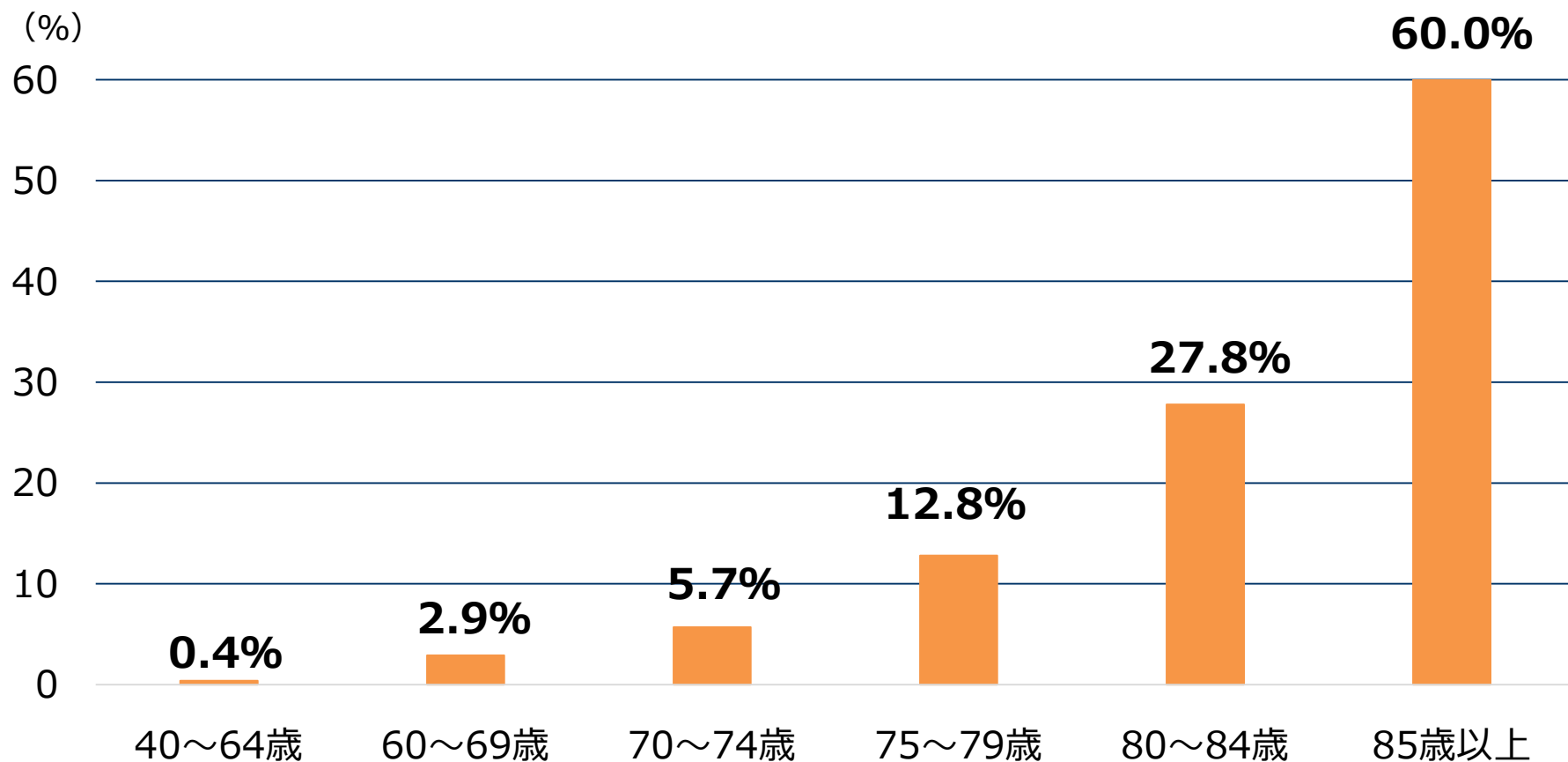
※厚生労働省「百歳へのお祝い状及び記念品の贈呈について」（2020年9月1日現在の住民基本台帳による都道府県・指定都市・中核市からの報告数）

【参考】主要疾病の平均入院日数



※厚生労働省「患者調査」(平成29年)

【参考】年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合



認定者数
(万人)

16.19

26.04

49.16

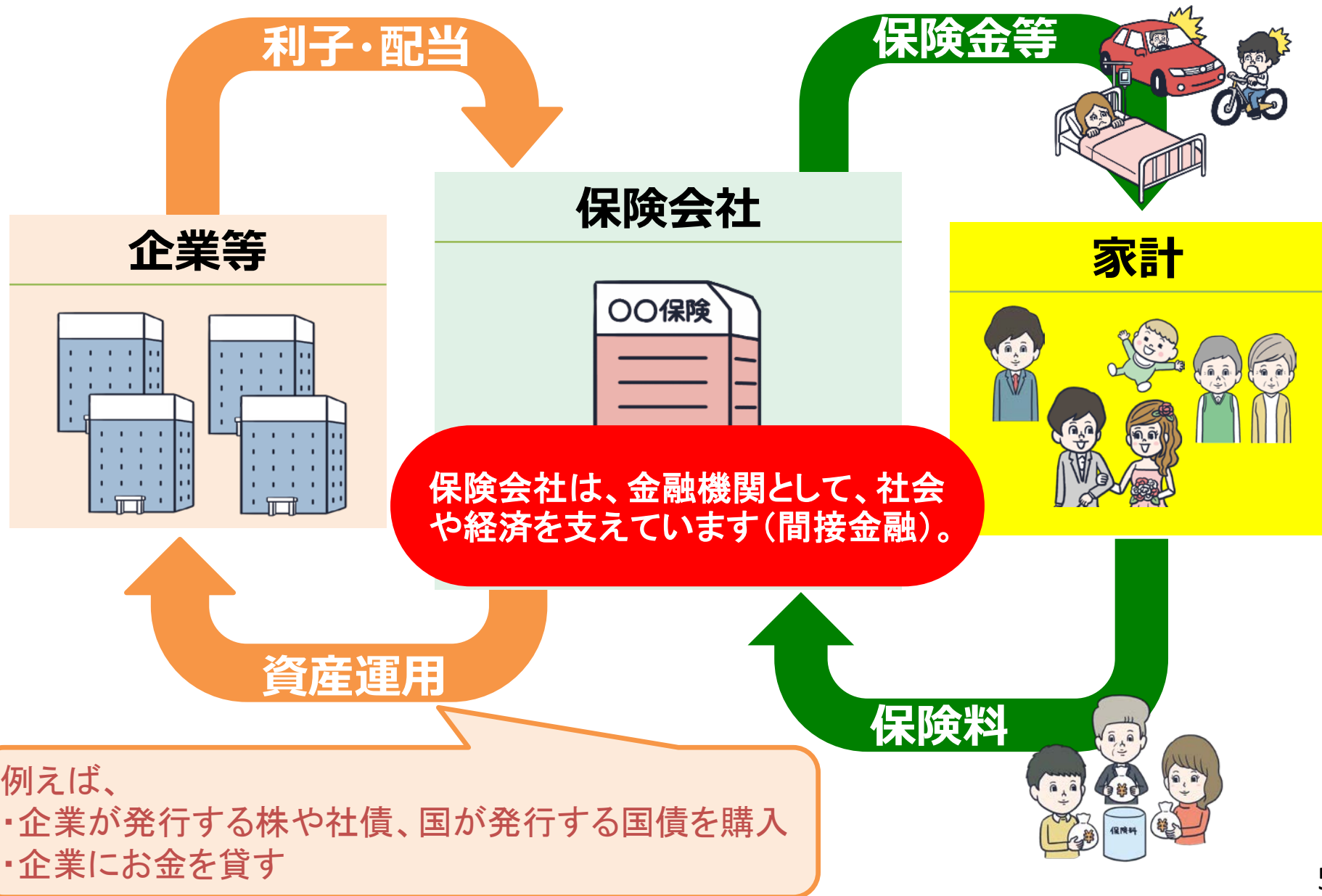
91.87

148.06

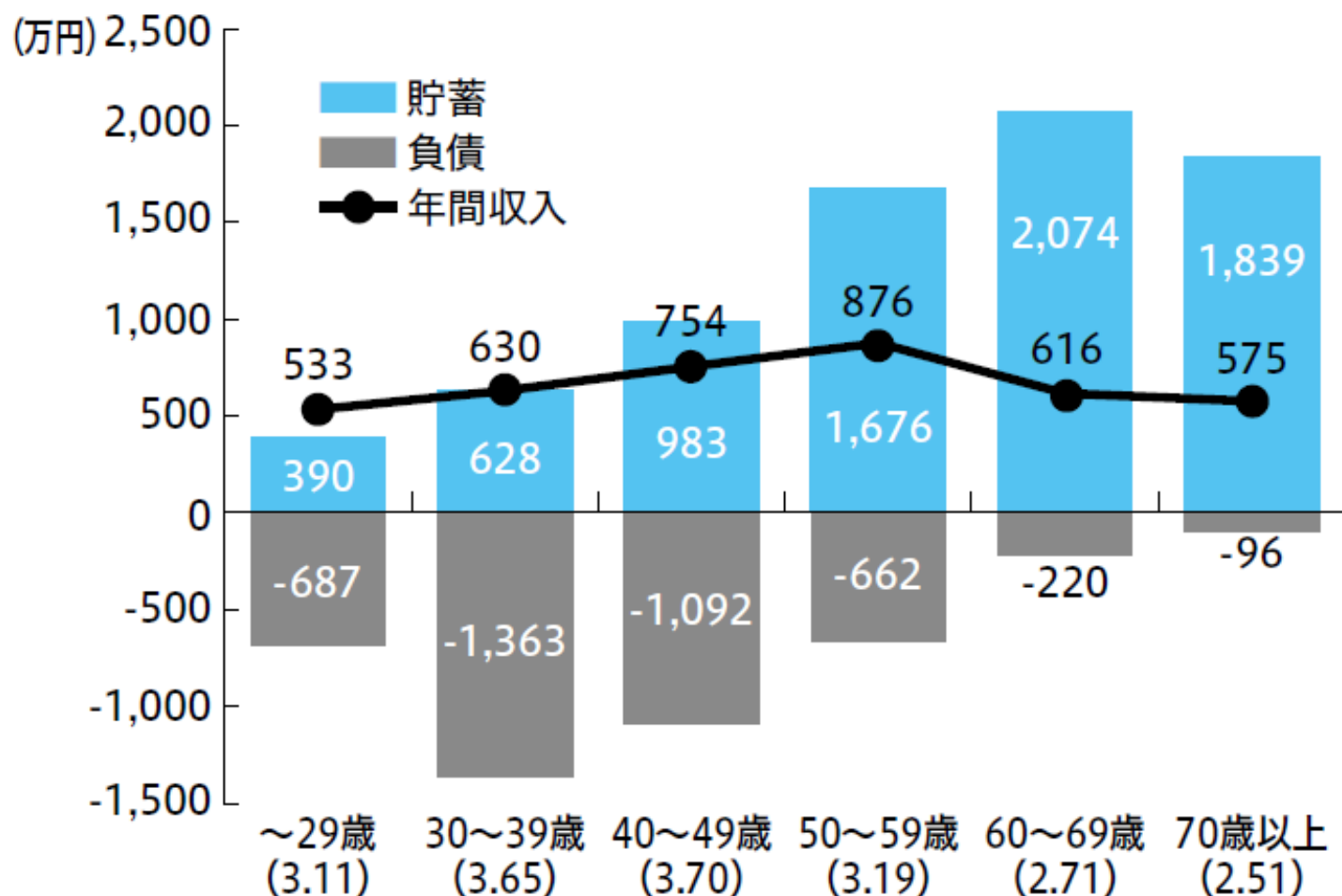
353.14

※生命保険文化センターが厚生労働省「介護給付等実態統計月報」、総務省「人口推計月報」の各2019年7月データをもとに作成

【参考】社会や経済にもかかわる保険会社



【参考】年代別平均貯蓄額・負債額



注 ①二人以上の世帯のうち勤労者世帯。

②世帯主年齢のカッコ内は平均世帯人数を表す。

*総務省「家計調査年報」(2018年平均)